

NJ 素流協 News

令和7年8月10日
第247号

令和7年8月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6（農林会館5階）
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <https://www.soryukyo.or.jp>



会場の様子 晴天に恵まれにぎやかな雰囲気！

ノースジャパン素材流通協同組合青年部会は、8月3日、岩手県滝沢市のツガワ未来館アピオ（岩手産業文化センター）において、いわての森林づくり県民税を活用した児童・生徒向けの森林・林業普及啓発イベント「第5回げんき森林（モリ）モリフェスティバル」を開催しました。

ノースジャパン素材流通協同組合青年部会 「第5回げんき森林モリフェスティバル」を開催!!

5回目の開催となる今回は、例年とは異なる会場で開催し、猛暑の中でも、県内外から親子連れを中心に、過去最高の653名が来場しました。

歴代森林フェス 来場者数

	来場者数(名)
第1回 (2021.8.1)	389
第2回 (2022.7.9) ※全国植樹祭1年前 記念イベントと併催	650
第3回 (2023.8.6)	500
第4回 (2024.7.28)	534
第5回 (2025.8.3)	653

今年も、「山のしごとコーナー」、「木とのふれあいコーナー」、「展示コーナー」の3つのコーナーを設けるとともに、チェーンソー伐倒デモンストレーション（主催…岩手県グリーンマイスター連絡協議会）、親子木工教室（主催…岩手県木材青壮年協議会）等が併催されました。



見事なチェーンソー伐倒を披露

「山のしごと」を見て知ってもらうため、林業の機械作業のデモンストレーションが全3回実施されました。
はじめに、併催イベントとして、岩手県グリーンマイスター連絡協議会によるチェーンソー伐倒のデモンストレーションが行われ、伐倒の手順等について解説をしながら、協議会員の方が正確で安全な伐倒を披露しました。

《山のしごとコーナー》

林業の仕事イメージして
もらうための機械作業実演を行う



「山のしごと」デモンストレーションはイベントの目玉!!



観覧席からは真剣なまなざし

- ・ 木のぼり体験
- ・ 丸太ぎり体験（鋸）
- ・ 丸太ぎり体験（チェーンソー）
- ・ 枝はらい体験
- ・ 木工教室（併催）
- ・ クップ体験
- ・ 防護衣類の試着・撮影

《木とのふれあいコーナー》

木や林業を身近に感じて
もらう各種体験ができる

その後、青年部会の会員が説明及びオペレーターを担当し、ハーベスタによる伐倒・造材、フォワーダによる運材、自走式チップパーによる丸太の破碎作業の実演が行われました。

普段見ることのない格好良いチェーンソー伐倒や高性能林業機械作業を目の当たりにして、会場は大きな拍手と歓声に包まれました。



木のぼり体験



丸太ぎり体験（鋸）



丸太ぎり体験（チェーンソー）



親子木工教室



枝はらい体験



クップ体験コーナー



試着コーナー



重機を間近にして子供も大人も歓声をあげていました

今年、いわて林業アカデミーの紹介ブース出展も行われました。高性能林業機械の各ブースにおいて、高性能林業機械等の紹介展示が行われました。子供たちが機械の運転席に座って記念撮影をしたり、各ブースを巡るスタンプラリーを行うなど楽しんでいる様子が見られました。

《展示コーナー》

高性能林業機械の
紹介展示等を行う



子どもたちが楽しめるゲームや体験コーナー等、各ブースで様々な催しがありました!!



スタンプラリー也大盛況!



いわて林業アカデミーのブース



未来のオペレーター!?



ご協力いただいた皆様、ありがとうございました!

岩手県林業団体青年部連絡協議会／株式会社レンタルのニッケン／日立建機日本株式会社／日本キャタピラー／合同会社北東北地区／イワフジ工業株式会社／住友建機販売株式会社／コマツ岩手株式会社／緑産株式会社／株式会社サナース／株式会社アクティオ／桂田興業／株式会社エープラス／株式会社ディーエルディー／株式会社シルバンテック

▼協力団体・企業等のご紹介

イベント開催にご協力いただいた
皆様に深く感謝申し上げます。

トピックス

岩手県大船渡市山林火災の
被害木活用が始まりました!!

今年の2月に大船渡市で発生した山林火災の被害木の活用が、様々な形で進められています。

一部の製材所や合板工場での利用が開始され、バイオマス発電所では被害木の納入が始まっています。

また、大手企業もCSR（企業の社会的責任）として、被害木の活用を検討し始めているとのこと、さらなる被害木の活用・復興が期待されます。

物林株式会社 社内研修
「天然秋田杉を知る」
～鈴木理事長が講師を務めました～

7月22～23日、「天然秋田杉を知る」をテーマに、物林株式会社との社内研修が秋田県で行われ、当組合鈴木理事長が講師を務めました。樹齢250年以上の天然秋田杉



スギの木の大きさを実感！



上大内沢自然観察教育林 視察の様子

が群生する上大内沢自然観察教育林を散策し、「森の巨人たち百選」に選ばれているコブ杉等を、理事長の解説付きで視察しました。他にも、有名木造建築や銘木等製材工場の視察が行われました。

伐採搬出・再造林ガイド
ラインの全国連絡会議に
参加しました

7月17日、伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議（代表理事・有馬純隆氏）の令和7年度第7回通常総会が千代田区神保町の日本教育会館で開催され、当組合から一条参与兼経営企画管理部長が出席しました。

来賓を代表して、林野庁林政部木材産業課 福田淳氏から挨拶があり、ガイドラインの活動目的のひとつに、再造林できる山元価格の実現があることを再認識する機会となりました。

議案可決後、令和7年10月3日に秋田市で開催される「第8回伐採搬出・再造林ガイドラインサミット秋田大会」の主催者である佐藤総栄氏（秋田県素材生産流通協同組合理事長）から、開催骨子の説明がありました。

同サミットは、あきた芸術劇場「ミルハス」にて、「人口減少に寄

添う森林経営」をテーマに開催され、基調講演、活動報告、高性能林業機械メーカーによる省力化事例の発表等を予定しています。

東北で2回目となる全国サミットの内容詳細と当組合員皆様の参加方法については、追って連絡いたします。

通常総会終了後に行われた講演会では、林野庁森林整備部木材利用課 監査官 齋藤綾氏から「木質バイオマスエネルギーの利用促進について」、今年の森林林業白書に特集が組まれている重要課題「生物多様性を高める林業経営と木材利用」について、詳細な解説がありました。



総会（写真上）と講演会（写真下）の様子

熱中症予防サイトについて

～注意を払って、この夏を

乗り切りましょう～

気候変動等の影響により、今年6月の熱中症による救急搬送人員は過去最多の17千人（うち60%以上が60歳以上）と高い水準で推移しています。もはや災害級!!

これまでの気象庁からの発表に加えて、今年から、環境省の熱中症予防情報サイトにおいて、熱中症特別警戒アラート・熱中症警戒アラートの情報提供を行っています。

熱中症警戒アラートの発表地域では、死亡に繋がる重大な健康被害のおそれがあることから、自発的な熱中症予防行動や作業者間の見守りや声かけを積極的に行うよう、注意喚起と、熱中症が発生した場合の対処方法（社内担当者・最寄り救急病院等）の作業員周知を再確認してください（雇用者の義務になりました!）。

【アラートの種類と地域】

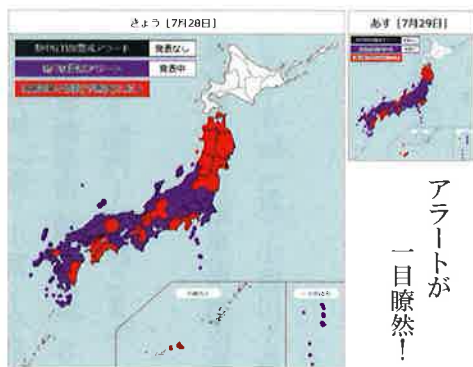
「熱中症警戒アラート」は、熱中症の危険性があることを知ってもら

うために都道府県の観測地点で、暑さ指数（※）が33以上と予測される場合に、発表される情報です。

都道府県の全観測地点で、翌日の暑さ指数35以上が予測される場合には、過去に例のない危険な暑さとして「熱中症特別警戒アラート」も発表されます。

2つのアラートは、地域が分かりやすいように環境省熱中症予防情報サイトに地図で示され、当日の分は午前5時、翌日の分は14時、17時に更新されます。併せて、熱中症が発生するとされる「日最高暑さ指数（予測値）31以上の地域」も毎日赤色で表示されています。

環境省熱中症予防情報サイトより



また、アラートが発表された場合には、個人あてに届くメールの自動

配信サービスもありますので、ご活用ください。

但し、「アラートの発表がない＝安心」とはなりません。作業によっては、気温28℃であっても熱中症となる可能性があるのくれぐれもご注意ください。



※暑さ指数（WBGT）（湿球黒球温度：Wet Bulb Globe Temperature）は、気温に加え、人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目した指標で、①湿度、②日射・輻射（ふくしゃ）など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標。

乾球温度計に比べて太陽光や路面からの輻射熱による温度の上昇や湿度による冷却熱の影響をより正確に反映できる。

【アラートの取得方法】

①環境省 熱中症予防情報サイト

環境省
熱中症予防情報サイト

<https://www.wbgt.env.go.jp/>



②個人あてのメール配信サービス

環境省熱中症予防情報サイト
暑さ指数メール配信サービス

https://www.wbgt.env.go.jp/mail_service.php



また、救命救急センター、救急告示病院等の救急医療を担う最寄りの医療機関もネット公開されています。

お知らせ

令和7年東北管内自動車道及び一般道路開通予定

待ちに待った自動車道、一般道路の開通があります。より近く、より便利になりますね！

●青森県

▽下北半島縦貫道路むつ南バイパス 5・3 km、横浜南バイパス 7・0 km、横浜北バイパス一部 1・5 kmの合計13・8 kmが併用される見通し。

●岩手県

▽国道45号 盛岡西バイパス 3・6 km開通

▽国道4号 北上拡幅2・5 km村崎野々相去町の全線4車線に。

●宮城県

▽国道108号 古川東バイパス 1・6 km 古川松山線く国道4号

▽国道349号 丸森町災害復旧事業 14 km開通予定。

●秋田県

▽日本海沿岸東北道路ニツ井今泉

道路 4・5 km (仮) 小繋く今泉

▽東北中央自動車道 横堀道路 3・7 km (仮) 下院内く雄勝こまち

●山形県

▽日本海沿岸東北自動車道 遊佐象潟道路 7・3 km (仮) 小砂川く象潟

●福島県

▽常磐自動車道くいわき小名浜 IC 8・3 km 令和7年8月7日15時開通予定。

※8月10日時点での開通予定です。

「〇〇県 道路開通予定」で検索すると詳細情報を見ることが出来ます。

海岸防災林再生活動
開催のお知らせ

令和7年度の海岸防災林再生活動を次の通り開催いたします。

【日時】

8月26日(火)

【場所】

宮城県名取市台林国有林内「ノー・スジャパン100年復興の森」

【作業内容】

枝落とし作業、ツル切り作業、下刈り作業、入口階段の修復、防風垣撤去作業等を計画しております。

詳細は、送付済みの案内文書をご覧ください。皆様の参加をお待ちしております！

営業部からのお知らせ

8月の樹種・材種の
不足状況について

8月10日時点での樹種・材種の不足状況について以下の通りお知らせします。何卒ご協力をお願いします。

●集成材用

スギ4 m材：制限なく納入可能

●合板用

合板工場の減産が強まり、原木納入の制限が強まる(特にスギが制限)

●製材用

スギ3 m材、3・65 m材、4 m材：制限なく納入可能(虫害に

は注意)

※気温が上昇しているため、虫害・青変菌の被害にご注意ください。できるだけ、伐採後は速やかにフレッシュな状態で納入いただけるようご協力ください。

N J 素流協 夏期休業のお知らせ

下記のとおり休業いたします。

**休業期間：8月13日(水)～
8月17日(日)**

休業期間中はご不便・ご迷惑をおかけいたしますが何卒よろしくお願い申し上げます。

営業開始は8月18日(月)からとなります。

よろしくお願いします



ちよつと気になる木の話

109

地方経済活性化に向けて：
今でしょ！

— 新設住宅着工戸数
指標に拘わらず！ —

地方の人口減少、少子高齢化が進む中、地方の新設住宅着工戸数は減少の一途であり、地方の木材産業の先に明るい光は見えないとして、木材需要を分析する産学官の有識者？が多い。ちよつと違うんじゃないの。地方県内需要で完結という地方工場はなく、日本全体に出荷するので、日本全体の「新設住宅着工戸数」だよね。で、少し上級の分析気分となっている人も多い。さて、建築関連業界では、住宅メーカーであっても、新設住宅だけではなく、リフォームや非住宅分野に続々と進出している今である。

こうした中で、中央省庁と大手企業との「建築物木材利用促進協定」が続々と締結されている。代表例を列記してみよう！(株)竹中工務店×国(農林水産省)、大林グループ×国(農林水産省、経済産業省)、大成建設グループ×国(農林水産省、環境省)、(株)安藤・間×国(農林水産省)、前田建設工業(株)×国(農林水産省、経済

産業省、環境省)、鹿島建設(株)×国(農林水産省)等の大手ゼネコンの名前が列をなす。また、大手ゼネコン以外にも、野村不動産HD(株)、日本マクドナルド(株)、(株)良品計画、日本生命保険相互会社、(株)オートバックスセブン、と全国展開チェーン企業も多数協定を結んでいる。

一方、地方自治体では、学校法人立命館×大分県、(株)ひろぎんHD×広島県、(株)テレビ大分×大分県、(株)愛媛銀行×松山市等が結んでいる。

ここで、考えてみよう。全国のゼネコンがこぞって協定を締結する中、地方のゼネコン、不動産大手の協定は見えない。公共事業に頼っていて、民間事業が無いんだらうか？そんなことはないでしょう!! 沢山のビルを所有している地方の会社もすぐ思い浮かぶが…。

こうした協定の情報がまだ地方に流れず、働きかけも全く行われていないように思える。地方銀行は、地方経済活性化が最大の業務である。鉄やアルミ、プラスチックの大企業が立地している地域は、躊躇するかも知れないが、(一社)日本プロジェクト産業協議会(JAPI

C)は、日本製鉄(株)会長が始めたし、YKK AP(株)も木製サッシに進出する時代である。

他にも、全国展開チェーン店の歴史を見ると、青森県出身のホームセンターや岩手県出身のドラッグストア、新潟県出身の農業資材ストアなど地方出身の大手も多く、本社もすべて地方にある。加えてこの県にも、地方で多店舗を展開するスーパーマーケットも多数ある。また、学校法人立命館と大分県を見ると、地域に進出した私立大学との協定である。東北にもたくさん私立大学があり、移転新設、増設の動きもある。医学部があれば、附属病院の整備もとなる。この例を参考として、各県で協定への取組みを進めるべきだと思う。

県庁には「企業誘致課」を持っているところも多いが、「木材利用促進協定課」もいいかなあ！県庁、市役所職員に、民間企業への働きかけは「ばかっけえーそんなくだら仕事、おらの仕事じゃねえべー」とお叱りを受けそうだが…。更に、TDK、トヨタ、キオクシア等の地方で大量雇用している都市から進出してきた企業にも可能性があると思う。いわゆる企業城下町は、企業が殿様の意味でもある。でも、殿様も住民が幸せでなければ維持

できないのである。

こうした進出企業にとっても、水源涵養、上砂流出防止機能も工場継続の必須条件であり、地球温暖化に貢献するのも「今でしょ!」。しまったあ!6月で株主総会終了だったか?でも株主の発言が無くてできるよね。

他にも、インバウンド拡大の中、街並み保存条例とかがなければ、銀山温泉、鳴子温泉、花巻温泉とかの温泉組合と協定すると高齢級材、広葉樹材等も活性化するか?夢は、東北6県の知事と東北電力、JR東日本とかと東北全体の「建築物木材利用促進協定」の協定締結写真がみたいなあ!!そうなれば、中山間地在住の素材生産業者の若者も生活に心配なく子育てできると思う。

最後に、一向に木造・木質化の見えない農協・漁協の建物への利用のため、県単位で農協、漁協を結ぶことは必須だと思う。まだ、どこの県もやっていないかと思う。それは、中央団体でしょう!!と反論されそうだが、是非〇〇県から始めました…。歴史に名を残すかも? (ただし、森林組合、木材会社、林業会社は木造・木質化が当然であるので、お忘れなく)

令和7年7月分の販売実績

樹 種	合板・L V L 用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	12,024	103.4	95.6	19,697	112.5	145.0	31,722	108.8	121.3
カラマツ	6,664	84.1	123.3	333	109.9	107.7	6,998	85.1	122.5
アカマツ	2,726	259.5	101.1	0	*	0.0	2,726	259.5	99.3
その他	0	0.0	0.0	138	52.1	170.3	138	50.6	125.1
合 計	21,415	103.9	103.4	20,169	111.5	143.8	41,584	107.5	119.8

樹 種	燃 料 用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
ス ギ	3,575	149.9	51.7
カラマツ	4,594	122.1	97.5
アカマツ	508	166.6	53.0
その他	456	123.3	91.2
合 計	9,133	133.9	69.8

樹 種	今 年 度 累 計			
	合板・L V L 用 (m ³)	製材・集成材・その他用 (m ³)	計 (m ³)	燃 料 用 (t)
ス ギ	48,876	64,590	113,466	10,291
カラマツ	27,787	848	28,635	15,562
アカマツ	9,981	56	10,037	2,805
その他	22	825	847	2,863
合 計	86,666	66,319	152,985	31,521
目標達成率(%)	34.7	35.8	35.2	26.3
計 画 量	250,000	185,000	435,000	120,000

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和7年8月の需給動向】

- 集成材、製材工場の原木不足状況は続く。特にスギ4m材の引き合いが強い。
- 合板工場は減産が強まり、今後は納入制限も更に強まる傾向。特にスギは制限が厳しい。
- 虫害や青変菌による品質低下が目立つ時期となり、速やかな納入が要望されている。

耳からウロコ

ウッドファースト

〜続いて〜 ツリーファースト

ーピジョン美和の森から考えたことー

「ピジョン美和の森」とは、1986年から続く茨城県常陸大宮市(旧美和村) 国有林の「法人の森林」である。ピジョンとは、育児用品の製造・販売業を業とする会社で子供が生まれた時、誕生記念育樹キャンペーンを行って、希望者に「森の住民票」を発行して、「木育」活動をしている。

理念は「育児と育樹、心はひとつ」である。この活動への私の関わりは、植林活動ではなく、17、18年前ごろ、大学教授に声をかけられて、ピジョンの会社の人から相談を受けたことにある。植えた木も大きくなってきたので、この利活用方法に良いアイデアがあったらアドバイスして欲しいとの事だった。実際の美和村の植樹地は知らなかったが、美和村は、子供が小さい頃に、アウトドアでキャンプに行つて、美しい夜空を見た経験があった。その時アドバイスしたのは、子供が小学校に入ったら、生まれた時に植えた木の前で記念写真を撮る。成人の時には、伐った枝とか除伐木で木製ネームプレートとか作って記念品にするとかだったかな。

「育児と植樹も、心はひとつ」である。木の成長の20年は、子供の成長20年と一緒である。その間に、樹はCO₂を吸収し、雨水を

吸って上へ上へと成長し、土壌を安定化させて世の中に役立っている。子供は、親も成長させて、将来の社会経済の柱となり、世の中に役に立つことになる。いいよね!!

そこで、今考えるのは、従前から唱えている、生まれた時の「木のプレゼント、ウッドファースト」。その後、木造住宅、木質空間で人生を過ごす「ウッドライフ」。最後は国産の木の棺桶で旅立つ「ウッドエンド」になつて、「ツリーファースト」「ツリーライフ」「ツリーエンド」活動はどうかである。「ツリーファースト」は、日本で生まれた子供すべてが、生まれた年に定められた記念植樹の場所に植樹を行う。「ツリーライフ」は、植えられた木からの記念品が小学校入学、成人式、結婚式で配られる。そして、大きく成長し、利用できる林齢になったら伐採し、自分の家の何らかの材料に使われ「ツリーエンド」であり、「ウッドファースト」の始まりと重なる。全国での再造林が必要と呼ばれる中、どうしようか悩む広域合併市町村有林を活用して、民間企業にも活動費用を援助してやれないかなあ。

誕生記念の森林は数多くの希望地から選択して、家族みんなで植樹でもいいかな。仮に100万人分で1家族10本植えて、1千万本とすれば、2千本/ha植えたとして、5千haである。戦後日本の国土緑化方針の国民参加型の理念でも今だに継続している。

「ツリーファースト」「ツリーライフ」「ツリーエンド」どうかかな?